

## 29P1-pm003

早期体験学習にエイジ・ミキシング法を取り入れた試みⅡ — 当該学生及び薬局薬剤師からの評価 —

○二村 典行<sup>1</sup>, 奥山 恵美<sup>1</sup>, 小柳 順一<sup>1</sup>, 高橋 たみこ<sup>1</sup>, 長谷川 哲也<sup>1</sup>,  
小嶋 文良<sup>1</sup>, 光本 篤史<sup>1</sup>(<sup>1</sup>城西国際大薬)

【目的】城西国際大学薬学部では、教育の理念として「これからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出」を挙げている。本学では従来、早期体験学習と位置付けた本学近隣の福祉施設への訪問を行ってきた。6年制カリキュラムの進行に伴い、5年次学生の実務実習とのタイアップを図ることにより、更なる学生の学習に対するモチベーションアップを意図するプログラムを策定して実施を試みている。具体的には、1年次学生の見学先薬局において実務実習生（5年次先輩学生）から、薬局の概要等の一般的な事柄について説明を行うエイジ・ミキシング法を取り入れた。本年度も引き続き本教育プログラムを強化することを目的として、実施時期等の変更など実施方法を工夫したので、これらの成果等も含め、本取り組みに対する学生からの評価を中心として報告する。

【方法】1年生72名（昨年度80）を25グループ（昨年度24）に分け、山武郡市薬剤師会所属の9薬局（昨年度11）への訪問を実施した。その後、エイジ・ミキシング法、訪問の効果等について1年生および5年生にアンケートを行い、評価を行った。また、本年度は指導薬剤師（実務実習）の方にもアンケートにご協力いただいた。実施時期に関しては、カリキュラム実施方法の変更に伴い、昨年度の6月下旬～7月上旬から、本年度は10月中旬～下旬へと変更となった。

【結果・考察】1年生は、概ね本法が有効な学習法として認識しており、学習に対するモチベーションアップにつながったと回答した。また、薬局薬剤師の方々の本法の有効性に対する評価も概ね良好であった。更には、本法はむしろ5年次実務実習生のスキルアップに効果をもたらす可能性が高いことが、諸アンケート結果から察せられ、本法の更なる継続実施が望まれる結果となっている。